

令和8年度 研究主題

## 幼稚園教育と小学校教育とのつながりを考える

幼稚園は、学校教育の一環として、幼児期にふさわしい教育を行うものである。その教育が小学校以降の生活や学習の基盤ともなる。幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のためには、幼児期にふさわしい教育を行うとともに、まず小学校教育を知ることが重要である。

そこで、子どもの発達を長期的に捉える視点をもてるように、遊びを充実させ、幼児がどのようなことを学んでいるのかを分析するとともに、小学校教育を知り、幼稚園教育とのつながりを探っていきたい。

17園で共同研究しています

今里 東小橋 北中道 東中本 旭東 榎本 愛珠 銅座 玉造  
中大江 桃園 南 九条 韮 日吉 日東 立葉

### 今年度の 研究保育

- ・今里幼稚園 6月17日
- ・東小橋幼稚園 9月7日

### 第1回 研究部会

令和8年5月28日（木）

場所：立葉幼稚園

#### 内容

- ・部長あいさつ
- 研究の進め方について
- ・園紹介
- ・講話

○研究の進め方について（部長より）

令和7年度の第3ブロック研究部の研究より、幼児が好きな遊びを見つけて遊んだり、友達に親しみをもったり、身近な環境に興味や関心をもって取り組んだりして、幼児期にふさわしい生活を送ることが、幼稚園教育において育みたい資質・能力につながることで、また、幼稚園教育で育みたい資質・能力は、小学校での生活や学習につながり、幼児が小学校以降の生活や学習に向かうための滑らかな接続を進めるうえで大切であると分かった。これを受けて、本研究部では以下のように研究を進めることにした。

- ・幼児が幼児期にふさわしい教育の中で、どのような事を学んでいるのか丁寧に分析し、その学びが小学校の生活や学習にどのようにつながっているのか探っていく。
- ・各園での記録の検討会を充実する。幼児期にふさわしい教育の中で幼児の姿から学びを読みとり、読みとった学びがどのように小学校生活につながっていくのか各園で話し合い、学びの機会とする。
- ・スムーズに小学校生活に移行していくために、円滑な接続が不可欠である。そのために、幼稚園は、幼児期にふさわしい教育を充実させること、小学校の教科書や学習指導要領を読む、研究授業を参観するなど、小学校教育について理解を深めることが重要である。

講話 「幼稚園教育と小学校教育との『つながり』を考える

～見方を深めていくための出発点～

大阪市総合教育センター 教育振興担当 基本研修グループ 指導主事

- ・幼児が遊んでいるとき、関わるべきか見守るべきかの判断の難しさがある。この迷いこそが子どもたちを丁寧に見ている専門性である。先生の関わり方は一つではない。どの関わり方が正しいではなく、先生の関わり方によって子どもたちの考え方、考える時間や深さが変わる。
- ・幼稚園教育要領と小学校学習指導要領では、子どもに育みたい資質能力が共通の枠組みで整理されている。知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等の三つの柱は、つながりを強めるため、同じ文言で示されている。三つの柱は、中学校、高等学校等の学習指導要領にも共通している。  
幼児期から小学校にかけて幼児教育の大切さや方向性を共通認識していくことで、未来を生きる力が育まれる。
- ・小学校では自分の考えを説明する、試行錯誤しながら修正するという学びがどの教科にも大切になる。幼児期にどれだけ試したり、考えたり、友達とやりとりをしたりしてきたかという生きた経験の量が根っこになる。
- ・幼小接続というと、活動内容や教科の接続に意識が向きがちになる。大切なのは大人が子どもをどう理解するかという視点の接続である。先生は子どもを見ているときに、何を考えているのか、何に面白さを感じているのか、見通すことができると子どもの遊びの意味が大きく変わる。
- ・今この子は何を考えているのだろうと、先生たちの一瞬の見取りが、子どもの遊びを深め、次の学びにつながる。どんな意味を見出しているのか見る視点は何よりも大切だと感じる。先生のまなざしをつなぐことも大切である。できているかどうかという表面的なまなざしではなく、何を考え、迷っているのか、子どもの思いを見通すまなざしこそが幼児期の教育と小学校教育との学びの架け橋になる。